

和歌山県のカンキツ育種について

果樹試験場 主査研究員 宮井 良介

【要約】

枝変わりから‘植美’や‘あおさん’を、珠心胚から‘YN26’を、交雑から‘はるき’を育成した。交雑実生の単胚・多胚性や雄性不稔性、珠心胚と交雑胚の判別をDNAマークターで行った。また、‘あおさん’の品種識別マークターを開発した。

【背景・ねらい】

国内主要産地では、近年産地のオリジナル性を高め有利販売を図るため、既存の品種より優れたオリジナル品種の開発が進められ、品種の多様化が進んでいる。

和歌山県においても既存品種よりも優れた特性を持つウンシュウミカンおよびカンキツ新品種の開発を行っている。

【成果の内容・特徴】

- 1) 振興局・JAと連携し、現地で発生した枝変わり系統（優れた特徴を持った系統）の情報提供を依頼し、現地調査を実施した。これまで、ウンシュウミカン品種の‘植美’や‘あおさん’などを育成した。
- 2) 多胚性を有しているウンシュウミカンについては、珠心胚（種子親のクローン）という特性を利用して育種を行っている。これまで、ウンシュウミカン品種‘YN26’を育成した。
- 3) 中晩柑品種では、主に交配により新品種を作出する交雑育種を行っている。高糖度、良食味品種、少核を主目的とした育種親を使用し、実生の選抜では、雄性不稔性（花粉を作らない）、単胚性（後代の育種親として使いやすいため）を持った個体を優先して選抜している。これまで、中晩柑品種‘はるき’を育成した。
- 4) DNAマークターを活用した育種の効率化に取り組み、実生段階での交雑実生の単胚・多胚の判別や雄性不稔性の判別を行っている。また、品種識別マークターにより、珠心胚と交雑胚の判別を行っている。
- 5) これまで枝変わりや珠心胚で育成してきたウンシュウミカン品種について、DNAマークターでの判別はできなかったため、DNAマークターの開発に取り組み、‘あおさん’を識別できる品種識別マークターを開発した。



‘あおさん’ 果実



‘YN26’ 果実



‘はるき’ 果実